

## 東日本大震災にかかる対応について

### 1 建物等被害状況

- (1) 金沢八景キャンパス：扉のゆがみ、窓ガラスのひび割れ、壁に亀裂等
- (2) 福浦キャンパス：渡り廊下ジョイント部分に亀裂、液状化現象の発生
- (3) 鶴見キャンパス：ネットワーク、エレベータ、スーパーコンピュータ等の停止
- (4) 舞岡キャンパス：図書室の図書の落下
- (5) 附属病院：エレベータ停止、液状化現象の発生
- (6) センター病院：エレベータ停止、壁の塗装の剥離等

### 2 学生への対応状況

#### (1) 被災学生への特別支援

被災された入学予定者及び在学学生に対し、入学金、授業料等の減免および災害見舞金の措置を周知。現時点で相談者含め計 33 名申請見込み。(4 月 26 日現在)

今後、確認のため面談を実施予定。

状況	申請・相談	対象措置	備考
家屋破損	11名	減免・見舞金	修繕規模・引き続き居住可能
家屋被災	8名	減免・見舞金	破損・原発などで新住居へ移動
原発経済影響	4名	減免	原発・風評被害が影響し、収入減
勤務先被災	7名	減免	休業・失業など
収入減	3名	減免	勤務先の景気悪化
<b>合計</b>	<b>33名</b>		

#### (2) 留学生の状況について

新学期における、震災による留学生への影響は次のとおりです。(4 月 26 日現在)

区分	在籍数	うち退学した学生	うち休学した学生	確認中
学部生	81名	1名*	0名	1名
大学院生	68名	0名	2名	0名
<b>合計</b>	<b>149名</b>	<b>1名</b>	<b>2名</b>	<b>1名</b>

\* 平成 22 年秋より 1 年の予定で来日した交換留学生が、半期で留学中断、帰国。

#### (3) 卒業式、入学式

- 卒業式を中止とし、卒業生と学内関係者のみによる学位記授与式を実施(3 月 25 日)
- 入学式については、横浜市長並びに金沢区長のお二人のみ来賓として招き、例年より簡略化したかたちで実施(4 月 5 日)

### 3 附属2病院の対応状況

●累計で74名を派遣（4月26日現在）

（医師33名、看護師28名、技師5名、薬剤師3名、事務4名、大学院生1名）

- ・医療救護班の派遣（気仙沼市） 3/17～現在
- ・D-MATの派遣（羽田空港） 3/12～3/13
- （花巻空港） 3/16～3/19

※D-MAT：大地震及び飛行機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チーム

- ・横浜市医師会を通じた医師派遣 3/13～3/15
- ・老健施設への派遣（市内） 3/19～3/21
- ・横浜市消防隊同行医師の派遣 3/22～3/24
- ・横浜市消防隊派遣隊員のメディカルチェック 3/24
- ・インド医療チームの通訳ボランティア 3/26～4/6
- ・精神科医チームの派遣（福島県立医科大学） 3/27～3/31
- ・放射線科医等の派遣（福島県立医科大学） 4/4～4/6、4/11～4/13

●附属病院で11名、センター病院で20名の被災者を受入（4月26日現在）

### 4 今後の対応について

#### （1）夏期の電力不足への対応

契約電力が500Kw以上の大口需要家は、昨年度のピーク時使用量から25%抑制することが求められており、本学の各キャンパス及び附属2病院は、すべてこの大口需要家に該当しています。

現時点では、すでに照明点灯数の削減やトイレの暖房便座やハンドドライヤの停止、自動ドアの停止、エレベータの一部停止などに取り組んでおりますが、削減目標に達しないため、空調の制限・停止など、更に厳しい対応について全学的に議論し、削減目標をめざして努力していきます。

#### （2）被災を踏まえた対応強化について

##### ①災害用備蓄・備品について

学生・教職員数（附属2病院除く）の半数が帰宅困難者になる想定のもと、その帰宅困難者の3日分の水、食糧を備蓄することを計画しています。発災前の時点では、計画の半分にあたる約1,300人の3食3日分の食糧を備蓄していました。今後、発災時に使用した水、食糧、簡易寝袋等の補充も含め、計画数まで順次買い増していく考えです。また、停電時の対応に苦慮したなど、発災時の反省を踏まえた災害用備品の増強等を進めます。

なお、今回の震災では、大学は地域防災拠点に指定されておりませんが、結果として鉄道機関の運行停止により多くの帰宅困難者や近隣住民の避難者を受け入れたため、避難者の備蓄食糧等の大学敷地内での備蓄の可能性について、横浜市と調整します。

## ②防災訓練、防災マニュアルの見直し等

これまでの防災訓練をより実践的なものとするとともに、学生、教員も参画して、大学全体の防災意識を高めます。また、現在整備してある防災マニュアルについても見直すとともに、これまで想定していなかった津波に対する対応も検討していきます。

## (3) 被災地の学生、研究者に対する支援について

①東日本大震災で被災した学生（公立大学）が横浜近郊など本学に通学可能な地域に避難し自大学に通学できない場合に、科目等履修生（入学金及び履修料は免除）として受け入れ、修学支援を行います。

②東日本大震災の影響により研究活動が困難となった東北地方を中心とした研究機関等に対し、NMR（核磁気共鳴装置）施設を、無償で利用できるようにし、研究活動を支援します。